

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学研究科博士2年 張子康

プログラムを通じて、今後の参加者に役立つような諸点を記させていただきます。

○中国語のクラスについて

到着2日目、3月4日には早速オリエンテーションおよびクラス分けインタビューがありました。クラス分けは、私を含めみんな筆記試験を想定していましたが、実際は先生と1対1で10分ほどの質疑応答、教科書朗読、単語書き取りなどが行われ、すべて中国語で行われたので、初級レベルの学生はかなり苦労していました。それでも、みんなこのインタビュー方式が「自分のレベルに一番見合ったクラスに分けてくれそうだ」という印象をもたれていたようです。

授業は朝8時から午後16時までの間で、みなさん各クラスのスケジュールに沿って授業に出ておりました。大体は午前午後のどちらかに集中しているようです。

中国語の授業は学期を通じて行われているものに、私たちが2週間だけお邪魔する形になります。そのため、オリエンテーションの際に教科書は1セットが高く(200元以上)、2週間しか利用しない私たちは無理に全員買う必要はない、クラスメートとシェアしたり、コピーしたりして使ってもらって構わない、一度授業を受けてから決めるように、とのお話がありました。クラスと先生によっては教科書をほとんど使わないようなところがあれば、しっかり使うところもあるようで、一概に買わずに済むというものでもなさそうでした。みなさん割り勘して、写真やコピーをとって使うなどしていました。

○両替について

事前に配られたスケジュールに、到着当日に浙江大学生が両替に連れて行ってくれると記載があったため、多くの学生が両替をせずに浙江に来ておりました。ところが日曜日は予定が遅れて両替はできず、最終的に月曜日の夕方ようやく両替ができました。それも、オリエンテーション中に、浙江大の学生さんが希望者のお金を預かり、両替を行ってきてくれるという形でした。2、3日分過ごせるお金は最低限両替して持っていくのが無難です。

○事前に準備していくつかのもの

浙江大学での簡易な学生証を作ることになっており、証明写真が必要でした。同じくスプリングスクールに参加していた東大、静岡県立大のみなさんは持参していましたが、京大内では情報共有がうまくいってなかったようです。学生証は簡易と言ってもしっかりとしたもので、観光地などで提示すると大抵各種料金が半額になり、持っている人といない人では金銭的に大きく違ってきます。

また、浙江大のwifiを申請するには、パスポートのハードコピーおよび35元の現金(2週間の場合)が必要でした。パスポートコピーなどは事前に多目に準備していけたらスムーズだったように思います。

○全体の wechat グループ

浙江大の先生方、学生ボランティア、東大、静岡県立大の学生さん全員が参加している wechat グループ (wechat は LINE の代わりとなる SNS) が存在しており、事前に情報共有が進んでいたようなのですが、私たちは現地についてから知りました。今年から始まった試みなのかもしれませんが、来年度以降も踏襲されるかと思しますので特に記しておきます。

○通信

滞在中もっとも問題が多発したのは、通信に関する事柄でした。中国用 sim を準備してきたが繋がらない、繋がっても回線がとても遅い、浙江大の wifi が繋がらない、ノート PC を持ってきておらず大学とのメールのやりとりがうまくいかない、などなどです。そもそも sim ロックが解除されていないスマホを持ってきてしまった方もおりました。このあたりは、たとえ入念に準備してマニュアル通りに操作してもなぜかうまくいかない、ということがあるかと思えます。やや大変ではありますが、予備のスマホや sim を準備したり、中国で sim を買うことを覚悟してくるなど、プラン B をみんな準備するべきかと思えます。